

(別紙様式3)

令和4年度あいちラーニング推進事業研究報告書

学校番号 43

学校名 愛知県立江南高等学校

校長氏名 福島 宏

研究責任者職・氏名	教諭・浮邊 正夫	事務担当者職・氏名	主任・加藤 誉也
研究テーマ	ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの推進		
本年度の研究目標	(1) 変化の激しい時代を生き抜く力を育むために、各教科で生徒に身に付けさせたい力を着実に育む。 (2) ICT活用の特性・強味を生かすことにより、主体的・対話的で深い学びを推進する。 (3) 学び合いを通して、「協働的な学び」と「個別最適な学び」を一体的に充実させる。		
研究の実施内容			
実施月日	内 容	備 考 (対象生徒等)	
4月上旬	授業研究推進委員会発足		
6月2日	第1回授業研究推進委員会 ・あいちラーニング推進事業の概要説明	該当教員	
6月16日	第2回授業研究推進委員会 ・今年度の研究計画について ・公開授業発表者の決定について	該当教員	
6月21日	大学講師との打ち合わせ(名古屋大学 准教授 坂本将暢 氏) ・あいちラーニング推進事業の概要説明および現職研修講師依頼等について	校長・浮邊	
6月30日	第3回授業研究推進委員会 ・現職研修について ・タブレット端末の活用について	該当教員	
7月13日	第1回連絡協議会 ・主管校研究計画 ・重点校研究計画 ・情報交換	校長・教頭・浮邊	
7月14日	第4回授業研究推進委員会 ・第1回連絡協議会の報告 ・先進校への視察について ・希望書籍について	該当職員	
9月5日	第5回授業研究推進委員会 ・タブレット端末利用規約案について タブレット端末配付について	該当職員	
9月15日	現職研修 講師 名古屋大学 准教授 坂本 将暢 様	全職員	
9月22日	第6回授業研究推進委員会 ・公開授業、研究協議会および第2回連絡協議会日程について ・生徒タブレット導入について	該当職員	
10月13日	第7回授業研究推進委員会 ・公開授業及び研究協議会、第2回連絡協議会について	該当教員	

10～11月	<ul style="list-style-type: none"> 一人1台タブレットの各教科の利用状況についてと利用に関する問題点の報告 先進校視察及び各種研修会の参加について I C T支援員の来校について 	該当教員
10月26日	先進校視察及び各種研修会の参加（計8校） 【熱田高校、春日井市立高森台中学校、春日井市立坂下中学校、豊田南高校、近畿大学付属高校、岐山高校（岐阜）、愛知教育大学附属高校、津島高校】	教頭
10月27日	重点校視察【小牧南高校】（家庭基礎・体育）	教頭
11月10日	第8回授業研究推進委員会 ・先進校視察及び各種研修会の参加後の情報共有について	該当教員
11月15日	第9回授業研究推進委員会 ・先進校視察及び各種研修会の参加後の他教科への情報共有について	該当職員
11月16日	重点校視察【犬山高校】（数学Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・化学基礎）	該当職員
12月7日	重点校視察【小牧高校】（英語）	該当教員
12月9日	重点校視察【古知野高校】（ビジネス基礎・観光実務・食文化・こころとからだの基礎）	校長
12月9日	公開授業（数・英・理）および研究協議会 指導・助言者 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 坂本 将暢 准教授 愛知県教育委員会高等学校教育課 森本 芳裕 指導主事 愛知県総合教育センター研修部基本研修室 富安 伸之 研究指導主事 愛知県総合教育センター研究部経営研究室 原田 拳志 研究指導主事	1年2組 （数A：宮本） 2年5組 （化基：松並） 1年6組 （コミュⅠ：岡田）
12月9日	第2回連絡協議会 ・主管校からの報告 ・重点校からの報告 ・情報交換	該当職員
12月15日	第10回授業研究推進委員会 ・タブレット端末の持ち帰りについて	該当教員
1月18日	重点校視察【岩倉総合高校】（論理表現Ⅰ・化学基礎・総合探究）	教頭
1月19日	第11回授業研究推進委員会 ・タブレット端末の持ち帰りに伴う規約決めに当たり起こりうる問題点について	該当職員
1月23日	・タブレット端末利用規約（改定案）について	
2月16日	重点校視察【丹羽高校】（数学Ⅱ・化学）	該当教員
3月9日	第12回授業研究推進委員会 ・タブレット端末利用規約（改定案）の問題点等について	該当職員
3月14日	第13回授業研究推進委員会 ・タブレット端末利用規約（改定案）について	該当職員
3月16日	第14回授業研究推進委員会 ・タブレット端末利用規約（改定案）について	該当職員
3月下旬	学校評議員会 ・本年度の取組報告 ・取組に対する評価 学校Webページに研究成果を掲載予定	校長・教頭 該当職員
研究成果の評価及び普及・還元に関する実績		
<p>1 本年度の研究取組について</p> <p>「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの推進」を研究テーマに、「(1) 変化の激しい時代を生き抜く力を育むために、各教科で生徒に身に付けさせたい力を着実に育む、(2) ICT活用の特性・強味を生かすことにより、主体的・対話的で深い学びを推進する、(3) 学び合いを通して、「協働的な学び」と「個別最適な学び」を一体的に充実させる」の三つの研究目標を掲げて取り組んだ。</p>		

(1)については、「江南高等学校グランドデザイン2022（下図）」を基に、各教科で生徒に身に付けさせたい力を着実に育もうとした。(2)(3)については、名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授の坂本将暢先生を指導・助言者として依頼し、9月には現職教育での講師を、12月には公開授業及び研究協議会での指導・助言をしていただいた。また、昨年度まであいちラーニング推進事業を取り組んでいる先進校への視察や、他県でのICTを活用した授業を実践している先進校への視察、加えて全日本教育工学研究協議会全国大会愛知・春日井大会、愛知教育大学附属高等学校高校教育シンポジウムへの参加など、積極的に先進校への視察や各種研究大会に参加し、そこで得た知見を職員へ還元するために授業研究推進委員会や各教科会で情報共有して授業改善の参考とした。

江南高等学校グランドデザイン2022

〔校訓〕 学び はげみ 学べ

〔教育目標〕 変化の激しい時代を生き抜く力を育む

〔スクール・ポリシー〕

- 育成を目指す資質・能力に関する方針【このような人を育てます】
 - 主体的に課題を見つけ、自分の頭で深く考え、判断し、行動する人を育てます。
 - 思いやりがあって、他者と協力して課題を解決する人を育てます。
 - 生涯にわたって学び続ける意欲をもち、社会に貢献できる人を育てます。
- 教育課程の編成及び実施に関する方針【このような学びを行います】
 - 教科・科目において、幅広い知識・技能を基に、柔軟な思考力や主体性を育む学びを実践します。
 - 総合的な探究の時間において、キャリアや課題を探究する活動を通して、自己の在り方・生き方を考えたり、課題を発見・解決したりする学びを実現します。
 - 学校行事などにおいて、自ら進んで参加したり、他者と協働したりする活動を応援することにより、創造的な学びや成長の機会を提供します。
- 入学者の受入れに関する方針【このような生徒を待っています】
 - 向上心をもち、よりよい学校生活を送る意欲がある人を待っています。
 - 積極的に授業や探究的な活動に取り組むことができる人を待っています。
 - 他者と協力して物事に取り組むことができる人を待っています。

国語科 ①思考力や想像力を伸ばすとともに、自分の考えを国語でまとめ、伝えよう力 ②書籍の魅力を鑑賞し、めき豊かにするとともに、生涯にわたって自己を高めさせ続ける力	キャリア教育 現在及び将来の生活や学習と自己実現のつながりを見えたり、自立の意欲を醸成したりしながら、主体的に将来設計をする力
地理歴史・公民科 ①社会的事象を多様な視点から読み解き解決する力 ②他者や他国と共生する心 ③自国及び他国の地理・歴史を比較・考察することで、多様な価値観を定観し、現代世界の動静について考えよう力	生徒指導 自己の存在意義を感じながら、よりよい人間関係を形成し、有言実行で充実した学校生活を送る力
数学科 「数学的な見方・考え方」を働かせながら、知識や技能の習得とその活用につなげ課題を解決する力	清掃等 ①熱心力 ②責任心 ③感性 ④創造力 ⑤自ら課題を見つけ、それを解決する力 ⑥学び続ける力
理科 ①科学的な思考方法から得られる法則をもとに課題を解決していく力 ②事象・現象を正確に解釈する判断力と知識による状況に応じた判断力	英語 ①熱心力 ②表現力 ③感性 ④創造力 ⑤自ら課題を見つけ、それを解決する力 ⑥学び続ける力
保健体育科 ①生涯にわたって心身の健康を保持し、豊かなスポーツライフを継続する力 ②公正、協力、責任、夢などの意欲の育みに努める力。	芸術科 ①芸術に関する多様な内容を理解し、創造的に表現する力 ②美術文化の継承に意欲する態度 ③表現することや楽器を演奏して喜びを感じる力 ④仲間と作り上げる力
外国語科 ①通語に基いて、情報や考えを的確に理解し適切に伝えることができる基礎運用能力 ②英語を使って他者と協同的に意思疎通の場を構築する力。	家庭科 ①生活を主体的に営むために必要な知識、技能技術を習得する力 ②課題を見出し解決策を考え、変化の激しい現代に柔軟に対応できる力
情報科 ①情報モラル ②情報化社会での効果的なコミュニケーション能力 ③技術を適切に活用し課題を解決する力	総合的な探究の時間 ①社会的な関わりや物事を多面的に見る視野 ②表現力や探究力 ③課題発見力 ④将来への学びに向かう力

本年度の重点目標
 ア あいちラーニング推進事業を通して、授業及び学習評価を充実する。
 イ 「探Q」の工夫と研究を一層進め、キャリア教育と探究活動を充実する。
 ウ 生徒の「他者と協力して課題を解決する力」を伸ばす。
 エ 新型コロナウイルス感染拡大に対応した保健指導、学習指導等を充実する。

具体的方策

国語科 ・多様な文章や教材に触れ、そこから自分の考えを表現させたり、他者と共有させたりする。 ・文章から意図や感情の豊かさに触れ、それを文化や教育を大切にする意図につなげる。	理科 ・授業内で観察、実験、資料の提供を行い、物事を考え解決していく態度を養う。 ・ICTを活用する。	情報科 ・情報化社会の課題の解決をテーマに、問題解決の方法を話し合わせる。コンピュータで作品を作らせ、発表させる。	3年 ・自己分析や学問研究を通して自己の興味・特性を認識させ、社会に主体的に参加する態度を育む、自分の未来像を明確にさせ、進路実現を目指す。
地理歴史・公民科 ・歴史資料を活用し、多様な意見や価値観を理解させ、自分の考えをまとめさせる。	芸術科 ・表現意図に合う形式や技法を選択し創意工夫して創造活動を行わせる。 ・新機軸で表現力や意図を表現させる。 ・音楽の法則を学び、楽器を奏することができるようにさせる。 ・仲間と色々な楽器に触れ、曲を創作させる。	総合探究3年 ・課題研究を通じて得た知見を身の周りの他者や社会に還元すべく、影響力のある、わかりやすい形で発表させる。3年間で振り返り、自らの将来や生き方のイメージを具体的に描かせる。	キャリア教育 ・進路選択指導を通して、自己の特性に気づかせる。(自己探求) ・オープンキャンパスや体験学習により進路実現のイメージをもちこませる。(自己探求) ・学校行事を通じて、自らの内面に手頃な活動により自己実現につなげる。
数学科 ・授業内で問題を効果的に解く。 ・別解を考えさせる。 ・グループで課題を解決する機会を設ける。 ・ICTを効果的に活用する。	外国語科 ・実際の英語使用の場を想定しながら、日常的または社会的な話題に関するパフォーマンス課題を実施する。 ・本や新聞、動画といった多様な媒体を用いて情報の発信を行ったり、それに関しての自らの意見を積極的に英語で発信する場を設ける。	総合探究2年 ・SDGsを手がかりとして自らの周囲や世界に存在する課題に目を向けさせ、主体的に探究したい課題を発見し、情報収集・整理し、まとめさせる。	2年 ・中核学生として主体的に学校行事に参加させ、企画力、創造力、実行力を身につけさせる。
保健体育科 ・体力および運動技能を向上させる。 ・種目選択制を実施。男女共同による授業を行う。 ・フェードプレイを大切にする心を育成する。 ・1ヶ月前に競技のために危険を覚悟する力を養いに行かせる。 ・心と体が深く関わっていることを体得させる。	家庭科 ・ホームプロジェクトを通じて課題を解決する力を身につけさせる。 ・グループワークで自分の意見を発表させ、他人と協力して課題解決できる力を身につける。 ・ライフプランを立て生涯にわたってよりよい意思決定ができるようにする。	総合探究1年 ・自らの興味に基づいた研究テーマを選択し、探究のプロセスの基礎を体験することで、自己や社会に目を向ける姿勢を身に付けさせる。	1年 ・高校生活3年間の礎となる基本的な生活習慣を確立させる。 ・学習習慣の定着と進路目標を見据えた学習姿勢を確立させる。
		総合探究3年 ・SDGsをテーマにした探究テーマを選択し、探究のプロセスの基礎を体験することで、自己や社会に目を向ける姿勢を身に付けさせる。	3年 ・自己分析や学問研究を通して自己の興味・特性を認識させ、社会に主体的に参加する態度を育む、自分の未来像を明確にさせ、進路実現を目指す。
		部活動 ・部活動の目標や意義を認識させ、心を鍛え、技術の鍛錬を行わせる。 ・部活動内での各々の役割を明確にさせることで、取組への意欲と責任感を高めさせる。	学校行事 ・各行事の目標や意義を明確化させ、課題を発見し、行事の成功に向けて組織で取り組む。 ・各行事における各々の役割を明確にすることで取組への意欲と責任感につなげる。
			清掃等 ・清掃道具を整理する。 ・啓発活動を実施する。
			生徒指導 ・社会的ルールやマナーを守り、規範意識を高める指導を充実させる。 ・基本的な生活習慣の確かな定着を目指す指導を充実させる。 ・自他への配慮や、不登校への対応を充実させる。 ・保健でつくる意欲の指導を充実させる。
			英語 ・「図書館がより」の役割を充実させる。 ・主体的な委員会活動を実施する。 ・教科で図書館利用の指導を行う。 ・「心の居場所」としての図書館の機能をもちこませる。 ・保護者や地域の親子出し出しを行う。 ・開放感のある図書館レイアウトにする。 ・朝の読書時間を行う。

2 連絡協議会について

(1) 第1回（令和4年7月13日実施）

尾北地区の主管校である本校と重点校である小牧高校、小牧南高校、丹羽高校、犬山高校、古知野高校、岩倉総合高校の7校で開催した。本校をはじめ各校の研究計画の発表と現在の取組状況の報告をし、情報交換として生徒に貸与されるタブレット端末を学校保管とするか持ち帰らせて活用させるのかを共有し合った。生徒が自宅で有効に活用できることや、破損や故障、本来の使用目的以外での使用などメリット・デメリットがあり、学校保管で進める学校が多かった。この結果を踏まえて、本校では教科の意向と学年の意向を集約し授業研究推進委員会で学校保管とすることに決定した。9月の生徒配付に向けて学校保管を前提とする利用規約の作成を進めた。

(2) 第2回（令和4年12月9日実施）

当日は主管校主催の公開授業および研究協議会を実施後に開催した。本校の取組報告、重点校からの報告、情報交換を行った。生徒用タブレット端末配付後の各校の利用状況や、持ち帰りに関する対応方法などを共有した。

3 授業研究推進委員会について

管理職及び教科主任、あいちラーニング推進事業担当者を授業研究推進委員会のメンバーとし、隔週のペースで会議を開催した。全職員への周知のため、委員会の内容を教科会で共有してもらい、意見集約をして委員会を実施するという形式で進めた。あいちラーニング推進事業の概要説明をはじめ、本年度の研究計画の周知や希望書籍の案内、ICTを活用した授業に関する情報交換、先進校への視察結果の情報共有などを行った。また、タブレット端末配付当初は学校保管とした利用規約の見直しを含めて今後のあり方について議論した。その結果、令和5年度からはタブレット端末を持ち帰らせることで決定し、持ち帰りを前提とする利用規約に改定することとした。

4 現職教育について

名古屋大学大学院教育発達科学研究科 坂本 将暢 准教授を指導・助言者として依頼し、令和4年9月20日に現職教育を実施した。「戦後教育の変遷、愛知の教育ビジョン 2025、ICTを取り入れた授業の事例、学校全体でのICTの推進、主体的・対話的な学びとは」を内容にわかりやすく質の高い講義をしていただいた。

5 公開授業及び研究協議会について

令和4年12月9日に尾北地区の高等学校を対象とした公開授業および研究協議会を開催した。他地区からの参加申込みもあり、10校27名の参加であった。当日は、名古屋大学大学院教育発達科学研究科 坂本 将暢 准教授、愛知県教育委員会高等学校教育課 森本 芳裕 指導主事、愛知県総合教育センター基本研修室 富安 伸之 研究指導主事、同経営研究室 原田 拳志 研究指導主事を指導・助言者としてお迎えした。公開授業の後、各教科に分かれての研究協議会・分科会を、その後研究協議会・全体会を実施した。日程は以下のとおりである。

<日 程>

- 13:00～14:05 公開授業
○数学A 1年2組 教諭 宮本 翔
○化学基礎 2年5組 教諭 松並 はるか
○コミュニケーション英語Ⅰ 1年6組 教諭 岡田 晴仁
- 14:20～14:55 研究協議会・分科会
・授業者より
・質疑応答・協議
・指導・助言
(英語)森本 芳裕様、(数学)富安 伸之様、(理科)原田 拳志様
- 15:00～15:30 研究協議会・全体会
・公開授業者への指導・助言 坂本 将暢様

当日実施した公開授業の取組、成果、課題を紹介する。

○第1学年 数学科 宮本 翔

(1) 取組

「数学A」において、空間図形の授業を実施した。本時の目標は、「①正多面体の体積を求めることができるようにする、②オイラーの多面体定理を利用し、正多面体が5種類しかないと証明できるようにする」の二つであった。ICT機器は教員用・生徒用タブレットを使用し、ロイロノートを活用した。

導入において、「次のうち存在する正多面体はどれか」という質問をアンケート機能で実施した。次に、正四面体・正六面体（立方体）・正八面体・正十二面体・正二十面体の五つが正解であることを、教科書の解説用QRコードを利用して確認した。次に正四面体の体積の求値問題を、解説せず生徒に解かせてみた。解答はロイロノートのカメラで撮影し、それを提出箱に提出させ、その場で授業者が内容を確認した。その後は、ロイロノートで作成した模範解答をスクリーンに映し出すなどして、授業のペースアップを図った。

(2) 成果

ICT機器を使用するメリットは、「①生徒の理解度を確認できること、②授業のペースアップ、③イメージの具現化」の三点であると感じた。

① 存在する正多面体のアンケートでは、正二十四面体など存在しない正多面体があると勘違いする生徒が過半数を超えるなど、こちらの想定以上に中学時の内容が定着していないことが確認できた。また、正四面体の体積の求値問題では、想定以上に生徒が苦戦したことを確認できただけでなく、別解で解いた生徒がいる事実気づくことができた。そのおかげで、全体に別解を共有することができたのは大きな収穫であった。

② 日常の授業において、例題解説→演習問題の流れで授業を行っている。演習問題は例題の類題であるため、黒板に模範解答を書いて、生徒がセルフチェックするという形式をとっている。しかし、この方法では模範解答を書いている時間に生徒の状況を確認することができない。事前にロイロノートで作成した模範解答をスクリーンに投影することで、時間を有効に使うことができた。

③ 5種類の正多面体を確認するために、教科書の解説用QRコードを用いた。多面体をスクリーンに投影するだけでなく、立体を回転させたり、双対多面体（各面の中心を結んでできる立体）を作ったりするなどICT機器なしでは指導が困難な内容にも触れることができた。

(3) 課題

ICT機器を使用するメリットの一つは授業のペースアップであるが、その使い方によってはペースダウンにもなりかねないことが課題である。当授業においても、体積の求値問題において、解答を撮影し提出箱にするのに多少時間を要した。また本校では、朝と帰りに担任がタブレット保管庫の開閉することで生徒へICT機器の受け渡しを行っているが、これにも時間を要している。時間を浪費しない運用方法を考えることが今後の課題であると考えた。

○第2学年 理科 松並 はるか

(1) 取組

2年生文系「化学基礎」において、中和滴定の実験の授業を実施した。中和滴定の実験は化学基礎の中でもポピュラーな教材である。しかしながら、使用するガラス器具、作業量も多く、実験をこなすことだけに精一杯になってしまうことも少なくない。このような「活動あって学びなし」にならないように、ロイロノートを利用して、実験の手順や器具の取り扱い方を示した教員自作の実験動画（以下、「自作動画」という）を配信して予習を促し、当日の操作をイメージさせてから実験に取り組めるようにした。

また、ロイロノートの共有ノートの機能を使用することで各班の進捗状況や実験結果がいつでも共有できるように工夫した。

(2) 成果

実験において生徒用タブレットを利用することのメリットは次の二点である。「①データの共有が簡単にできる点」と「②何度も見返せる点」である。

①については、写真付きで結果を共有することによって、自分の班の滴定後の色の濃さから、「ちょっと入れすぎたかなあ」と実験値のズレを考察する生徒がいて、考察の一助となる

ことを実感した。

②については、実験の考察を日を改めて行った時に、自作動画を見ることで何をやったかをすぐに思い出すことができている点でメリットを感じた。また、作業に迷ったら自作動画を確認したり、話し合いをしたりして生徒たちが主体的に実験に取り組んでいる姿が見られた。

また、普段の授業で生徒用タブレットを利用することのメリットは次の三点であると考えられる。「①ロイロノートの画面共有機能を用いて自作の授業プリントをそのまま生徒に配信できる点、②提出箱を利用した生徒の理解度の可視化ができる点、③振り返りの提出が容易である点」である。

①については、これまで授業プリントでは字が小さいため、黒板にプロジェクターで投影するためにパワーポイントを作り直していたが、その時間が大幅に短縮された。また、画面共有によって授業の効率も上がったため、その分の時間でゲーミフィケーションアプリを使用したり、問題演習の時間を多く取ったりすることができている。

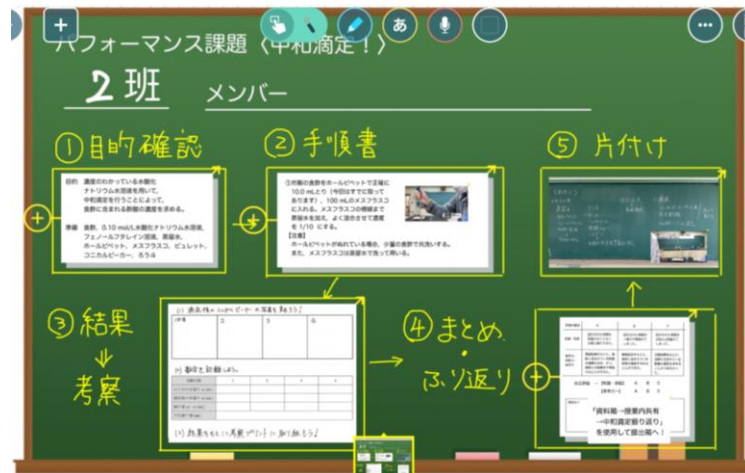
②については、グループでの教え合いを基本とし、問題が解けた生徒には、随時ロイロノートの提出箱に提出させた。それによって、誰がどこまで理解できているのか可視化することができ、授業中に支援が必要な生徒に適切に声掛けすることができた。また、早く解き終わった生徒には、資料箱に発展的な問題を用意しておくことで、生徒が時間を持て余すことなく、生徒一人ひとりの理解度に応じて指導ができた。こうした機能の活用は、理解度の差が出やすい化学基礎の授業と相性が良い。

③については、毎授業生徒たちに「何を学んだか」「難しいと感じたところはどこか」「新たに疑問に思ったことはあるか」の三つの質問で振り返りを書かせることで、生徒が自らの活動をメタ認知できるように支援した。

(3) 課題

操作方法を心配するあまり、動画を何回も頼ってしまい、実験を進めるにあたって、逆に時間がかかってしまった班があった。

図 実験で使用した共有ノートの画面



○第1学年 英語科 岡田 晴仁

(1) 取組

「コミュニケーション英語Ⅰ」において、Behind the Tag という衣料業界の実態を扱ったレッスンについて授業を実施した。本時の目標は、「①本文を聞いたり読んだりして、概要を理解し、簡単な問いに英語で答えることができる、②後に控えるパフォーマンステストに向けて準備する」というものだった。

資料やワークシートをロイロノート上で共有できる状態にして、生徒がそこに書き込むことで意見の共有をしたり、問いの答え合わせをしたりしながら授業を進めていった。

(2) 成果

授業を実施する中でロイロノートやその他のアプリを使用することには、三つのメリットを感じている。

一つ目は、意見の共有が簡単に行えることである。本校では人前で発言することに苦手意識を感じている生徒がたくさんいるが、ロイロノート上で意見を書かせると、口頭で意見を求めるよりも豊富な意見を集めることができる。時には教員が驚くような興味深い意見もある。それによって、内容の深い理解につながっている。また、各レッスンが終わるたびにショートエッセイを書かせたり、発表させたりしているが、ロイロノート上に残っている他の人の意見を参考にすることができるので、英語が苦手な生徒の手助けになっている。

二つ目は、ワークシートを用いる場合、従来のやり方よりもロイロノートを用いたほうが答え合わせなどの効率をはるかに良く、また質も良い。これまでは一つの問いにつき一人の生徒を指名するという方法をとっていた。しかし、ロイロノートを使用することで、全ての問いに数人が一斉に解答することができるため、生徒はさまざまな解答方法を瞬時に眺めることができる。また、教員もそれらを添削することでより多くの知識を生徒に伝えることができる。

三つ目は、今回の授業では実施できなかったが、ロイロノート以外にも電子教科書や Teams を使用してさまざまな種類のとても質の高い音読練習が実施できる。そのおかげか、私の担当する授業の生徒のほとんどが音読練習を楽しみにしている。

(3) 課題

ICT機器を使用するに当たって、課題と感じていることは、「①ICTを使うことによってかえって効率が下がることがあること、②インターネットの不正利用を防止する必要があること」である。①については、(2)の成果で豊富な意見を集約することができることをメリットとして挙げたが、生徒が書いた意見をなるべく多く取り上げようとする時間がかりすぎるので、そのさじ加減が難しい。また、②にもつながるが、まれに授業に関係がない落書きをする生徒もいる。インターネットにつながっているので、生徒にとってはよそ事をしやすい環境と言える。また、英作文をする際に翻訳ツールが使用できることも問題の一つと言える。教員も逐一確認するのは困難である。対策として、私の授業では二人で一つのタブレットを使用するようにしているが、調べ学習や発表資料を作成するときなどは、机間指導だけではどうしても不安になるのが現状である。

6 研究成果について

本年度の研究成果として、次の三つを挙げる。一つ目は、1と4で述べたように生徒一人1台タブレット端末の導入に伴い、職員間に期待や不安がある中で、名古屋大学坂本将暢准教授からわかりやすく丁寧な講義を受け、教員が恐れることなくICTを授業で取り入れようという気持ちにさせていただいたことである。坂本先生の「教員全員が生徒の学びを把握し、授業の可能性を模索する際にICTを取り入れてほしい」という言葉で、教員一人ひとりが試行錯誤しながら取り組んでいくことができた。二つ目は、1で述べたようにICTを取り入れた授業実践をしている先進校への視察や、各種研究会等へ積極的に参加し、そこで得た知見を報告書にまとめて、授業研究推進委員会や各教科会で情報共有することで、職員一人ひとりの授業改善を促すことができた。三つ目は、3で述べたように授業研究推進委員会の定期的な開催と教科会とを連動させたことで、各教科の意見を反映して取り組むことができたことである。タブレット端末のあり方について、課題を洗い出し他校の取組も参考にしながら活発に議論し、利用規約などを改訂することができた。様々な意見を踏まえて合意形成できたことは意義あるものであった。

7 今後の課題について

今後の課題について、二つ挙げたい。一つ目は、早い段階からの先進校視察や各種研究会等へ参加することである。令和5年度は、全教科での公開授業を二学期10月から11月頃に予定しているため、その前までに更に多くの知見を職員間で情報共有して臨みたい。二つ目は、授業研究推進委員会の定期開催は維持しつつも、1コマの独立した時間を確保して進めることである。本年度は1コマの中で教科主任者会も実施したため、議論をしつづことができず途中で終わってしまうことが多々あったからである。

次年度に向けて、より効果的にICTを活用した主体的・対話的で深い学びを追究していきたい。